

「マイクロソフト フライト シミュレータ 2004 翼の創世紀」

マルチプレイに挑戦！ その③

さて、マイクロソフトフライトシミュレータ(以下MSFS)の楽しみ方、第6回目は具体的な「マルチプレイ」の参加方法について解説いたしましょう。今回も、前回にご紹介したVATSIM <http://vatsim.net/> を中心にお話を進めていきます。

VATSIMにて航空管制を受けつつ、MSFSでフライトするにはまずVATSIMの会員に登録しなくてはなりません。登録は <http://cert.vatsim.net/vatsimnet/signup.html> にアクセスして登録します。登録手続きが完了すると、VATSIM本部からIDとPASS WORDが送られてくるので、それを大事に保管しておきます。

登録が終了したら、必要なソフトのダウンロードとインストールです。飛行に必要なソフトはSB Relay1.2、Squawkbox2.3、dllファイルでSB Host dll、FSUIPC dll が必要になります。

SB Relay1.2 ダウンロードしたら解凍して、SB Relay1.2フォルダ内にある.exeをダブルクリックするだけで使用できます。

Squawk Box2.3 ダウンロードしたファイルを解凍し、Setup.exeをダブルクリックしてインストールします。インストール後はプログラムフォルダの中にフォルダを形成しますので、その中のSquawk Box2.3.exeというアイコンをダブルクリックするだけで起動します。

SB Host dll これはモジュールといわれるファイルで、FS2004フォルダにあるModuleフォルダに入れて使用します。

これらのソフトやファイルは <http://vatsim.net/links/links31.htm> からダウンロードできます。

FSUIPC dll 有料のソフトです。日本ではインタークラフト <http://www.inter-craft.co.jp/> で取り扱っています。インストール方

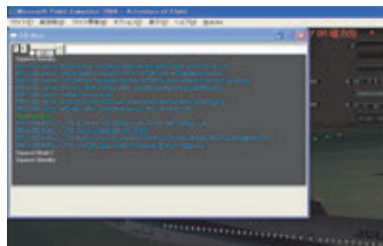
法はFSUIPCの説明書をご覧ください。

以上のソフトやファイルがインストールできたら接続を始めます。接続するにあたってはファイアウォールを解除しないと接続できませんので、ファイアウォールを解除するか、ネットゲームが可能なファイアウォールの導入をお勧めします。なお、ファイアウォールを解除するとハッキングの対象になりやすくなりますので、充分注意してください。



まず、SB Relay1.2を起動します。うまく起動できたらMSFSを起動します。MSFSが起動したら「メニュー」から「マルチプレイ」を選択し、「マルチプレイ接続」をします。「セッション」の欄に「SB.RelayFS2004Squawk Box…」と表示されますから「参加 (J)」をクリックします。

正常に接続されると「*Serverはセッションに参加しました…」と表示されます。次に「メニュー」から「Module」、「Host SB」、



「RUN」をそれぞれ順に選択し、「SB Host」というウィンドウが表示されたら、Squawk Box2.3を起動します。Squawk Box2.3が起動すると写真のような画面が表示されますので「Click Here Get into the Action…」という部分をクリックすると起動完了です。



Squawk Box 2.3のメニューは画面上で右クリックすると表示されますので、ここから「Connection」を選択し必要事項とVATSIMからもらったID・PASS Wordを入力すればOKです。接続に成功するとチャイム音がしてSquawk Box2.3画面上に青い字が表示されます。

ここまでの手順はかなり複雑なものです。わからないことがある場合や、うまく出来ない場合は <http://www.vatjpn.org/ja/> に設置されている掲示板などで質問することをお勧めします。次回はいよいよ実際にフライトしたレポートをご紹介します。お楽しみに！